

高齢者ヘルメット着用促進モニター事業のアンケート結果について （第1回～第3回調査結果抜粋）

I 事業の概要

主 催：交通事故ゼロチャレンジ実行委員会
事業期間：第1回：令和2年7月27日～令和2年12月25日
第2回：令和3年7月1日～令和3年11月26日
第3回：令和4年7月1日～令和4年11月25日
対象地域：県内全市町村（第1回は前年度自転車死亡事故の発生した7市村を対象）
実施内容：モニターは約2か月間日常生活の中で自転車を利用する際にヘルメットを着用し、その着用に係る意見等を「高齢者ヘルメット着用促進モニター事業アンケート」により回答する。

II モニターの属性

■年齢・性別

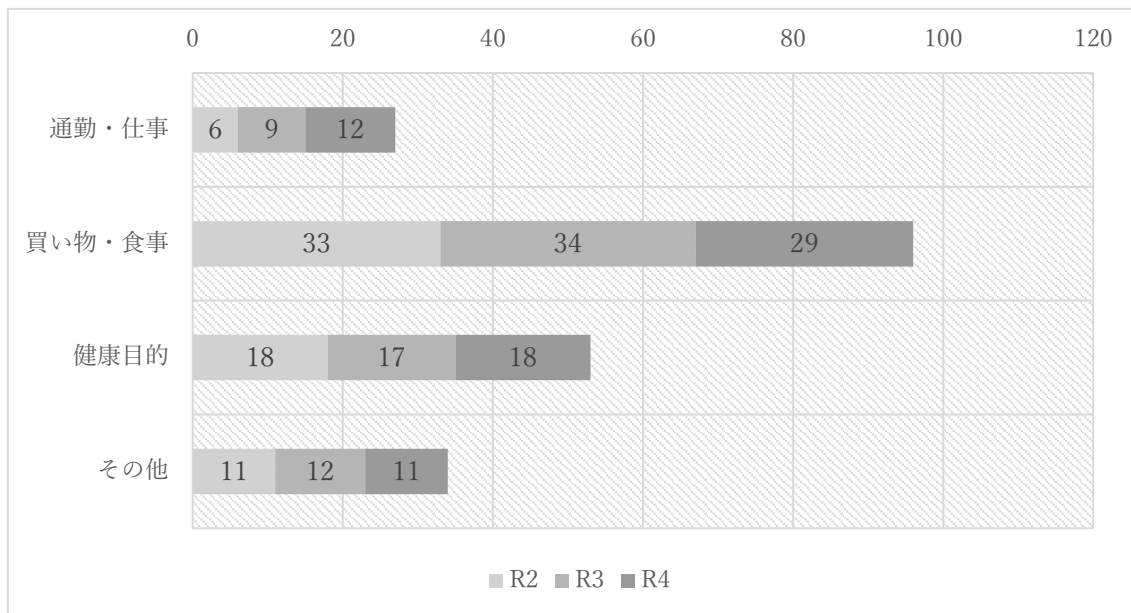
	第1回（令和2年度） モニター数：68人		第2回（令和3年度） モニター数：73人		第3回（令和4年度） モニター数：74人	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
65-69歳	8	9	12	10	12	6
70-74歳	17	8	8	8	13	13
75-79歳	10	4	7	7	6	7
80-84歳	6	2	9	8	6	4
85歳以上	4	0	2	2	5	2
（合計）	45	23	38	35	42	32

III 結果の概要

- ・これまで着用していなかった理由は「購入するほどの必要性を感じていなかったから」が最も多い。（35%）
- ・モニターの73%が帽子型のヘルメットを選択。ヘルメットを着用した際の周囲の高齢者の反響としては「ヘルメットだと気づかれなかった」が最も多い。（34%）
- ・モニターの83%がヘルメットを「今後も着用したい」と回答。
- ・ヘルメットの購入を考える価格帯は「3,000円」程度までが最も多い。（43%）
- ・多様なデザインのヘルメットがあることについて75%が「知らなかった」と回答。

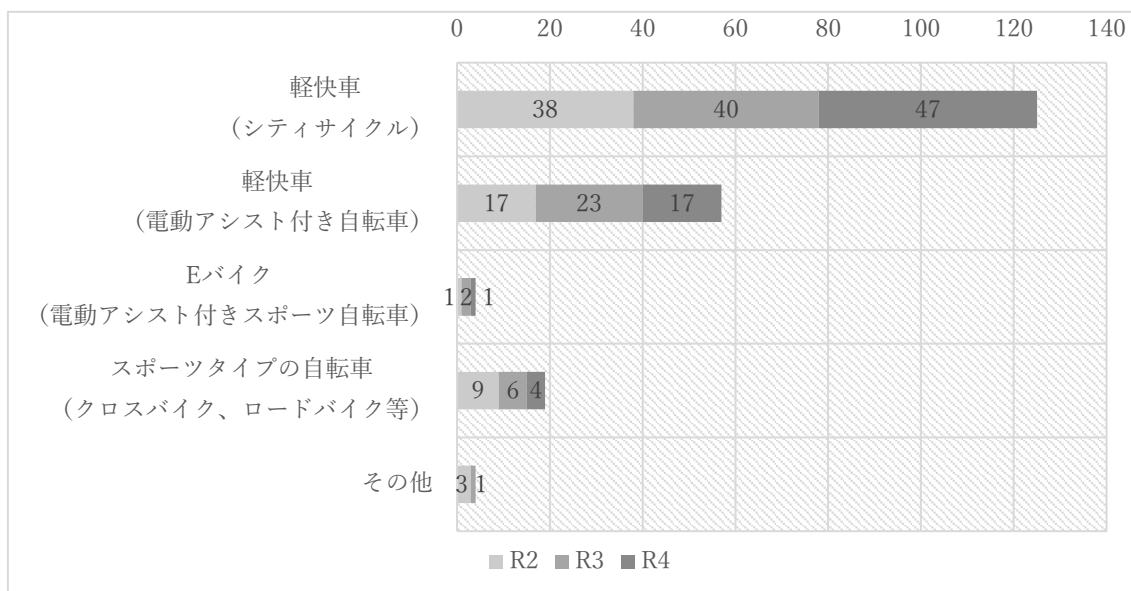
IV アンケート結果

■自転車の利用目的（累計：回答数 210）



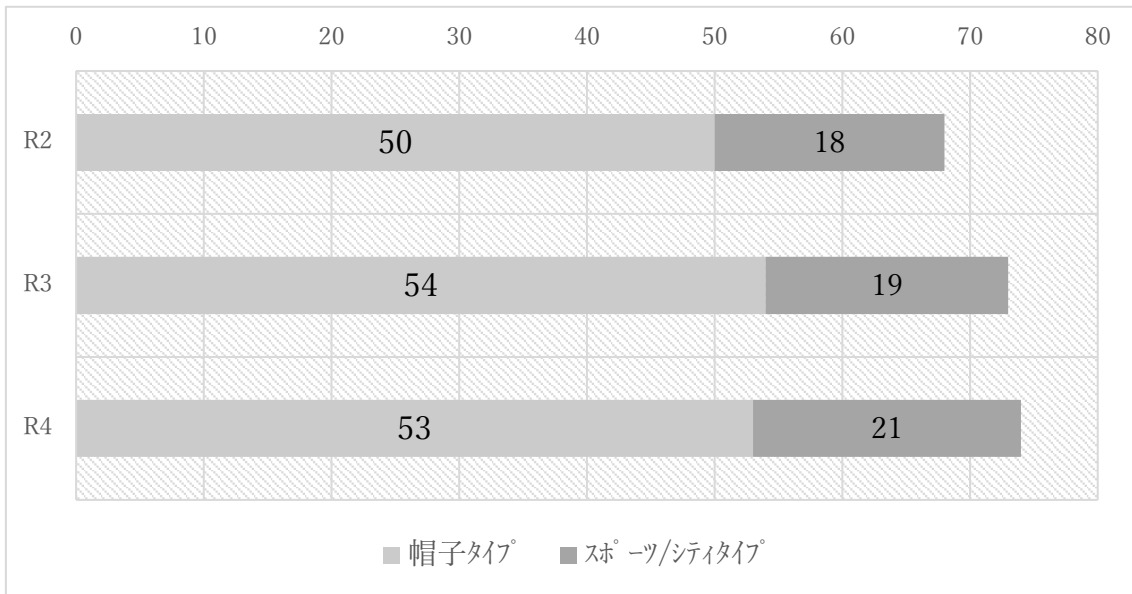
○自転車の利用目的は、全ての回で「買い物・食事」が最も多く、累計で 96 人（45%）となった。次いで、「健康目的」が多く、53 人（25%）となった。

■使用している自転車の種類（累計：回答数 205）



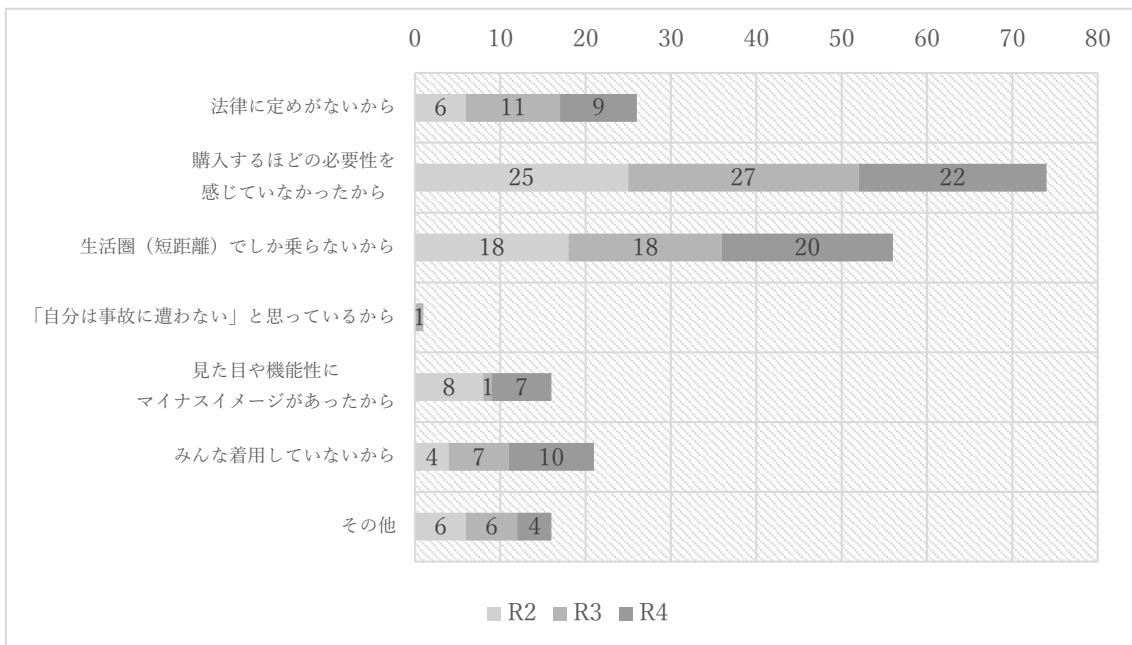
○使用している自転車の種類は、全ての回で「軽快車（シティサイクル）」が最も多く、累計で 125 人（61%）となった。次いで「軽快車（電動アシスト付き自転車）」が多く、57 人（28%）となった。「その他」は折り畳み自転車など。

■ 選択したヘルメットの種類（累計：215）



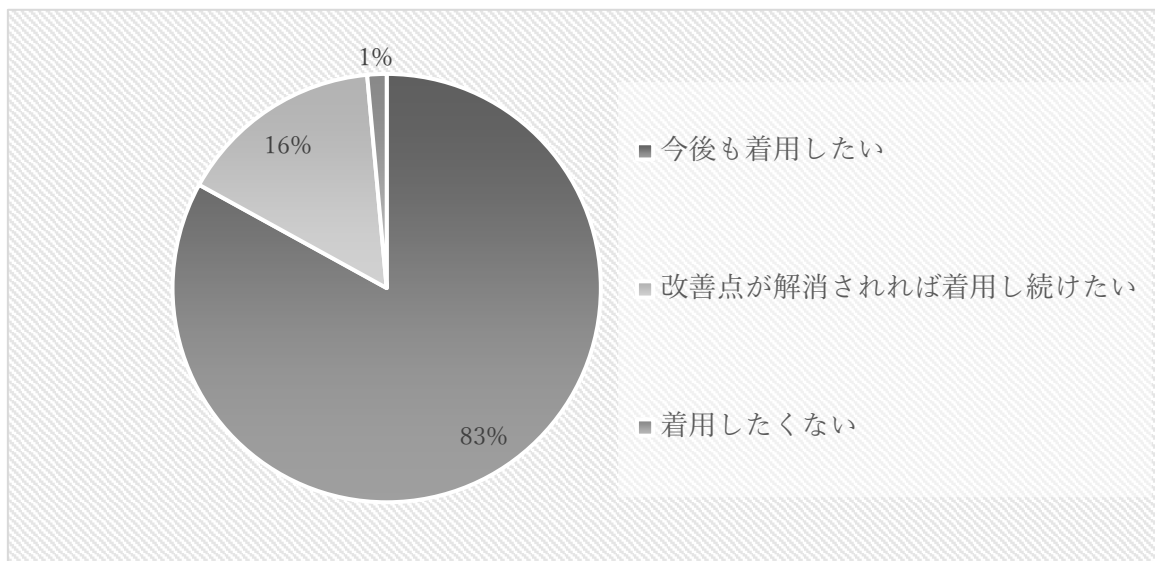
○ 選択したヘルメットの種類は、全ての回で「帽子タイプ」が「スポーツ/シティタイプ」よりも多く選ばれており、累計では「帽子タイプ」が157人（73%）、「スポーツ/シティタイプ」が58人（27%）となった。

■ モニター調査前にヘルメットを着用していなかった主な理由（累計：回答数 210）



○ ヘルメットを着用していなかった理由は「購入するほどの必要性を感じていなかったから」が最も多く、累計では74件（35%）となった。次いで「生活圏（短距離）でしか乗らないから」が多く、56件（27%）となった。

■ヘルメットの感想（累計：回答数 207）



○ヘルメットの感想としては「今後も着用したい」が累計で 83%、「改善点が解消されれば着用し続けたい」が 16%、「着用したくない」が 1%となった。

■ヘルメットの改善点について（自由記載）

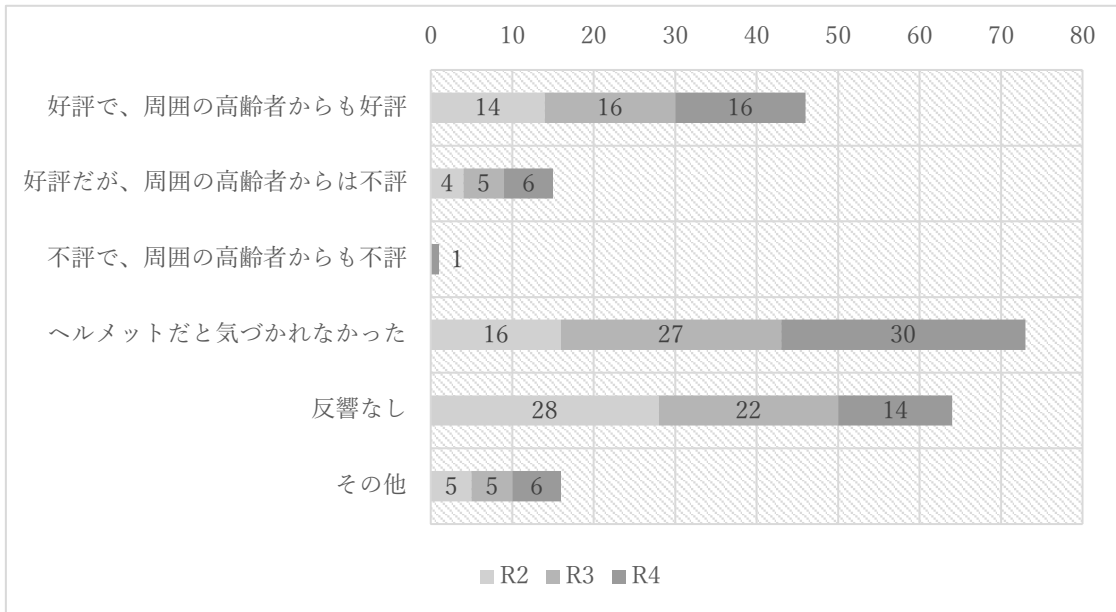
表：意見の要約（第 1 回～第 3 回調査結果より抜粋）

サイズ	サイズが大きい 又は 小さい
	深さが浅い
重さ	少し重い
耐寒性・耐暑性	夏は快適だが冬は寒い（薄い生地帽子タイプ、スポーツタイプ）
	冬は快適だが夏は暑い（厚い生地帽子タイプ）
機能・構造	帽子タイプのヘルメットのカバーを季節に応じて付け替えられるとよい
	置き場所に困るので収納しやすくなるような工夫があるとよい
	あごひもが装着しにくい（取り外しにくい）
	夜間目立つように蛍光色や反射材を取り入れてほしい
	ヘルメットを自転車に取り付けられるとよい（盗難防止機能として）
	日差し避けのツバをつけてほしい（大きくしてほしい）
	頭にあたる部分の素材を柔らかくしてほしい
	雨天時に利用できるよう防水機能をつけてほしい
	汗をかくので部分的に（あごひもなど）取り外して洗えるとよい

[要点]・ヘルメットは装着感に個人差があるため、「サイズを選択肢が増えるとよい」という意見が多数みられた。

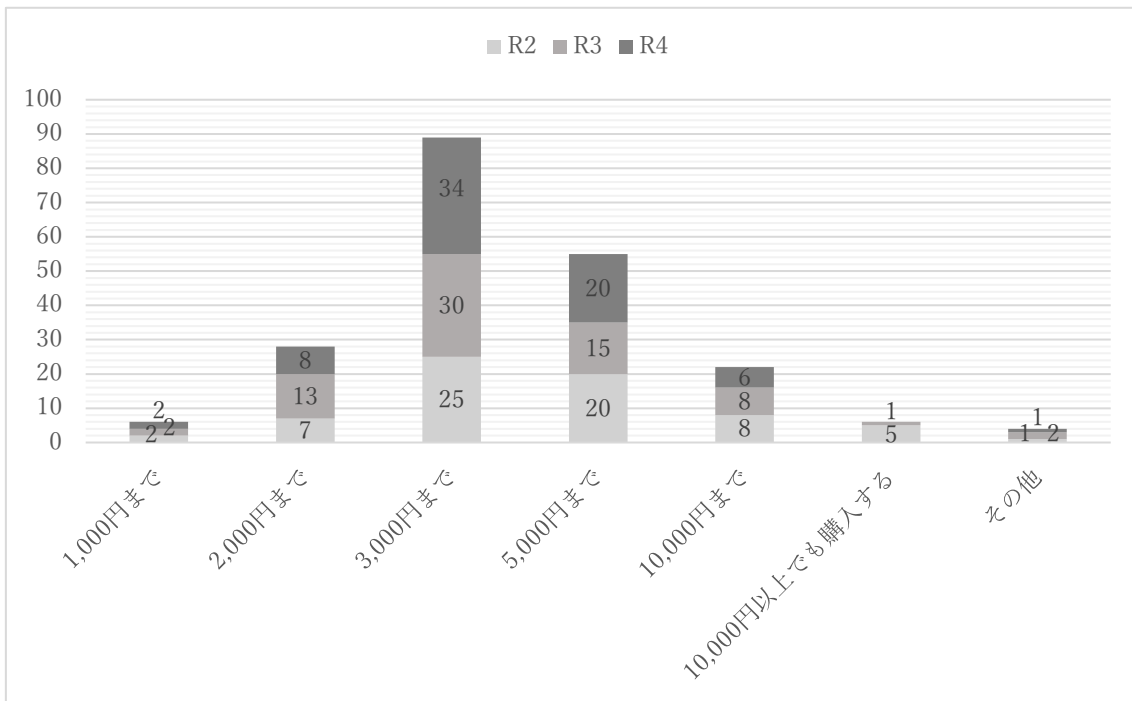
- ・帽子型ヘルメットは季節に応じて使用感が変わることから、帽子部分を自作して使用しているケースもみられた。

■ヘルメットを着用した際の周囲の高齢者の反響（累計：回答数 215 件）



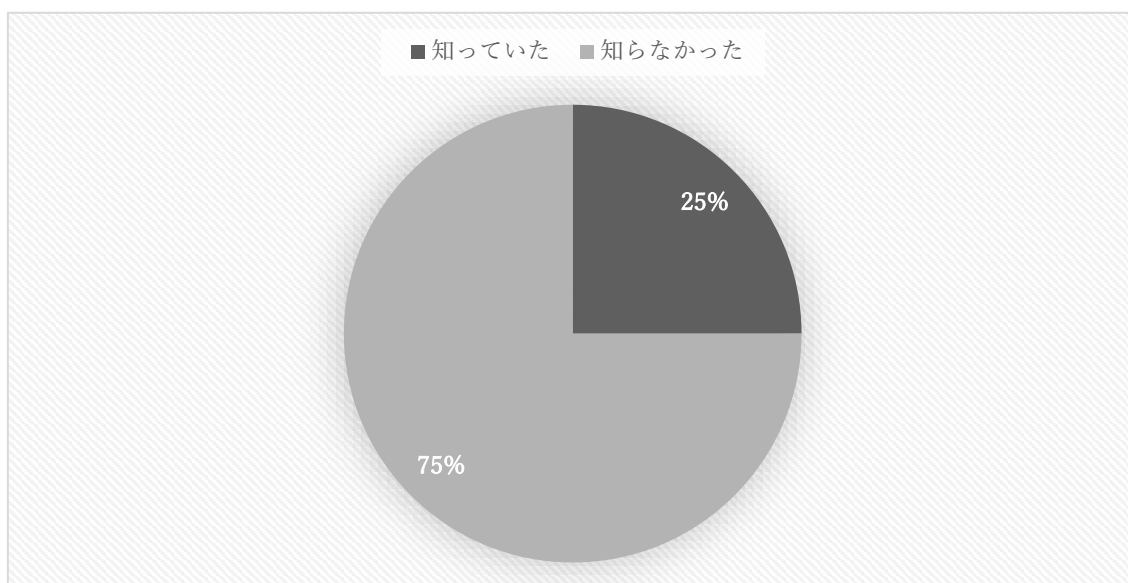
○帽子型ヘルメットを選択したモニターからは、「帽子型のタイプであったので、ヘルメットだと気づかれなかった」という反響が最も多かった。（累計 73 件：34%）

■どの程度の価格までならば自転車用ヘルメットを購入するか（累計：回答数 210）



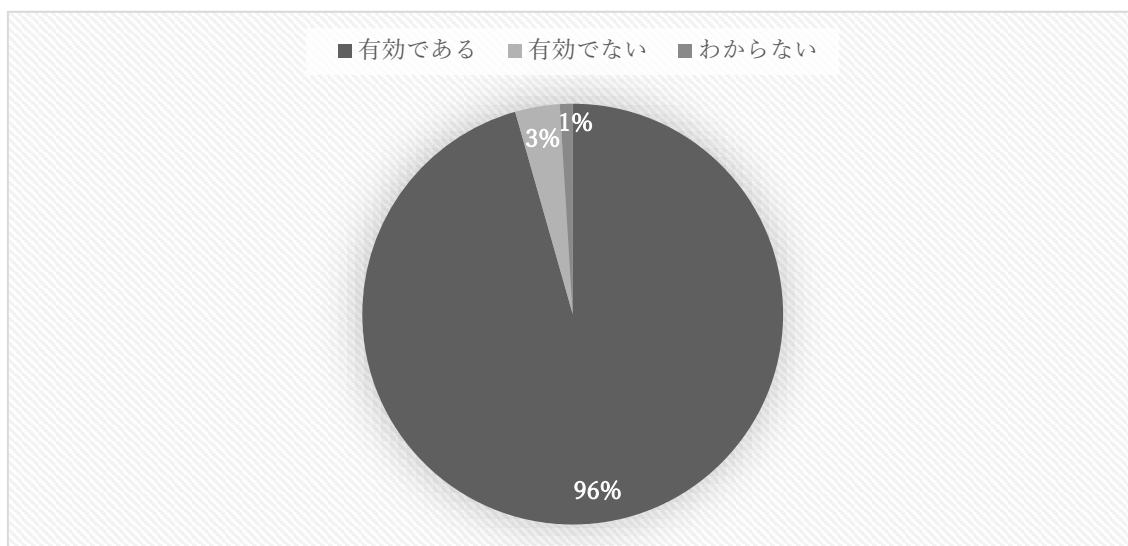
○どの程度の価格までなら自転車用ヘルメットを購入するかについては、全ての回で「3,000円まで」が最も多く、累計で 89 人（42%）となった。次いで「5,000円まで」が多く、累計で 55 人（26%）となった。

■多様なデザインのヘルメットがあることを知っていたか（累計：回答数 209）



○多様なデザインのヘルメットがあることを知っていたかについては、累計で 156 人（75%）が「知らなかった」と回答。

■本モニター事業は、ヘルメット着用促進に有効であると思うか（累計：回答数 205）



○本モニター事業がヘルメット着用促進に有効であると思うかについては、累計で 195 人（96%）が「有効である」と回答。

有効であると答えた理由としては「ヘルメットを着用するきっかけになる」「周りの高齢者にも勧められる」など。一方、有効でないと答えた理由としては「事業の認知度が低いから」「もともと意識の高い人が応募しており、無関心層への対策が重要だから」などが挙げられた。

■ヘルメットの着用促進にはどのような方法が有効だと思うか（自由記載）

表：意見の要約（第1回～第3回調査結果より抜粋）

周知の手段等について 【119件】	安全性や必要性について周知を徹底する
	ヘルメット着用・非着用の事故状況や危険事例を広報する
	講習会や学校での交通安全教室を充実させる
	運転免許更新の機会にヘルメットの着用を呼びかける
	子供のころからの習慣づけを行う
	サンプルのヘルメットを身近な場所や大型店当の人目の多いところに置く
	街頭啓発等の宣伝活動の頻度を上げる
	多様なデザインのヘルメットがあることを周知する
	回覧板を活用してパンフレット類を配布する
	地区の行事等での呼びかけ
	テレビやラジオ等でのメディアを活用した啓発を行う
	自転車を販売する際にヘルメットの着用を勧める
	警察の取り締まりの際にヘルメットの着用を勧める
	市町村の広報へアピールが必要
法律・条例等での規定について 【56件】	ヘルメットの着用を義務化する
	自転車の免許制度の導入
行政の制度や事業について 【16件】	ヘルメット購入代金の補助制度の導入
	ヘルメットの無償配布
	本事業の継続・拡大
	自転車販売店への助成
	ヘルメットを着用していると得をするような制度の導入
	ヘルメット着用推進員を委嘱して地域の集会などで着用を促す
製品の改善等について 【28件】	デザインの工夫、多様化（形状・色・素材等）
	安価な製品の販売
	ヘルメットの機能の向上
	自転車へ収納するケースや盗難防止錠等の工夫
その他 【8件】	地域コミュニティへの意識付けが重要
	ヘルメット着用率の高い海外の先進事例を参考にする
	ヘルメットを着用していた場合に適用される傷害保険をつくる

【要点】・周知の手段としては、ヘルメットの安全性や必要性を地道に周知していくことという意見が多くみられた。

・法律・条例等での規定としては、ヘルメットの着用を義務化するという意見が多くみられたが、罰則は設けるべきではないなどの反対意見もみられた。

V 今後について

長野県内の自転車死亡事故の傾向（H29-R4.9）として、65歳以上の高齢者の割合が70.3%と非常に高く、ヘルメット非着用者のうち53.1%は頭部に致命傷を負っています。改正道路交通法（令和5年4月1日施行）により全年齢の自転車利用者に対するヘルメットの着用が努力義務化されることから、着用促進に向けた一層の取組が求められます。

本事業については、モニターの9割以上が「有効である」と評価しており、ヘルメットの着用について8割以上が「今後も着用したい」と回答していることなど、効果の高い事業であると考えことから、交通事故ゼロチャレンジ実行委員会においては、本事業の継続的な実施を検討するとともに、自転車用ヘルメットの着用促進に向けた各種啓発活動に取り組んでまいります。